

第 88 回 GAORA 番組審議会記録(2025 年 3 月開催)

第 88 回番組審議会が 3 月 11 日(火)に開催され、対象番組について審議を行い、委員の皆様から以下のご意見をいただきました。

＜対象番組＞ GAORA虎キャンプ 2025 直前スペシャル
初回放送：2025 年 1 月 26 日(日)21:00～22:00

＜番組概要＞

2025 年、「鼓動を鳴らせ。虎道を進め。」のスローガンのもと、球団創立 90 周年の節目にペナント奪還を目指す阪神タイガース。今年からチームを率いるのは火の玉ストレートを武器に絶対的守護神としてチームに貢献し続けた藤川球児。2 月 1 日のキャンプインを目前に控えた 1 月、藤川球児新監督の人となりをよく知る人物へのインタビューから、若き指揮官の実像に迫りました。

＜委員長総括＞

■全体的に高評価のいい番組であった。高知・阪神・他球団パート、と重層的な構成で、藤川球児を多角的な視点から立体的に、かつ深みを持たせて描けていたところを評価する。
最後のパートについては、他の委員からあまりコメントが出なかったことから言っても番組内の印象に残らなかったといふことで、最後の締め方としてはどうだったのか、番組の完結性という観点からは課題として向き合ってもらいたい。
今後も中継番組とは違う GAORAらしい『魅せる番組作り』を期待する。

＜審議意見＞委員の主な意見は次の通り

■全体として「関係者が語る」形式のこの番組は成功したと思う。高校時代のエピソードは貴重で、藤川監督の野球選手としてのベースがよく表現されていた。正木監督の記憶力と観察眼は高校野球の監督の特徴を見事に表現できており、指導者に恵まれたという印象。このパートでは、「編集の妙」が際立っていたと評価したい。次の阪神パートでは、矢野氏の語りが秀でていて対談形式がしっかりとハマって大変聴きやすく、藤川投手についての技術論は聞き応えがあった。球威の「軽さ」については、もう少し詳しくそのメカニズムを聞きたかったところ。他球団パートも含め、藤川監督の「実像」がかなり明らかになったと思う。
ただ、「若き指揮官の実像」というタイトルからすると、指揮官としての資質、潜在可能性についてさらに情報が欲しいところで、矢野氏が藤川監督ならではの監督スタイルなどを仮説として語ると、開幕への楽しみはより高まったのではないか。
■藤川監督がどんな人なのか、人となりがよく伝わってきた番組であった。藤川監督を知らなくても、高校時代から阪神に入団してからのプロ生活における苦労や成長していくリアルな人生がよく分かった。阪神パートでは矢野氏の話が分かりやすく、愛情のこもったコメントから二人の関係性が想像できて感傷的であった。また、球威が「重い」「軽い」とか「ピッチャーモード」「キャッチャーモード」など専門的な視点からのコメントもあり、興味深く視聴できた。これまでの野球人生を踏まえて、素直に新監督への期待感が高まってきた。

- 藤川監督の出演はなく、まわりの方からどう見られているかの対談形式で構成されたおもしろい番組であった。高知パートのところでは、先輩や同期の方がインタビュー慣れしていないためコメントがややぎこちなかつたが、高校時代に努力を重ねてドラフト1位で阪神に入団するまでの姿が伝わってきた。阪神パートでは技術的な話が聞け、上原氏や平石氏のパートからは、彼の人となりがよく伝わってきた。藤川監督はどんなチーム作りをするのか、どのような采配を振るうのかが楽しみで、期待感をもって新シーズンを視聴できる。
- 高知パートの撮影では苦労があったのである。正木監督は教え子である藤川球児をしっかり語っていたが、先輩は本人への遠慮もあってか少し語りづらそうな印象を受けた。出演者の人選は難しいところである。阪神パートでは技術論や人物像についてのエピソードが聞けて大変おもしろく、もっと見たかった。周囲の証言から本人像がよく浮かび上がっていて、いい演出であった。1+1 が 2 以上になるのが対談形式の醍醐味であり、言葉をキャッチボールすることによって初めて浮かび上がる真実が伝わってきた。上原氏と平石氏のパートでは、もっと話を引き出せたのではないかと感じた。もしかしたら話を回す人がいたほうがよかったのかもしれない。
- 藤川新監督にスポットを当てた番組でありながら本人の出演はないという構成で、非常に良いものが出来上がっていたと高く評価する。母校において恩師や先輩、チームメイトが高校時代の姿をインタビューなしで思い出として語り合うことで、我々が知りえない藤川像がたくさん引き出されたように感じた。監督目線、先輩目線、同期目線という切り口が斬新で惹き付けられるものがあった。また、インサート映像では遠投話に合わせてグラウンドの外野のシーンになるなど、当時の様子がイメージできた。プロ野球の世界では、藤川さんがメジャーに挑戦するに至った思いを矢野さんが語ることで、身近にいたからこそわかる心情が伝わり、ホップするボールを受ける感覚などは「火の玉ストレート」の凄さが伝わってくる内容で聞き入った。引退セレモニーの秘話から義理堅さがわかるなど、全体を通して新監督の人となりが細部まで表現された番組となっていた。「野球は“間”的スポーツ」と語った藤川監督による哲学的な野球がどのように花開くのか、今シーズンへの期待感が高まる素晴らしい番組であった。
- 本人を出演させずに周囲の方々のコメントによる素晴らしい番組が制作できたのは、プロデューサーの手腕であろう。高校時代、阪神時代、そして他球団のパートの構成により、番組に深みをもたせることができていた。特に矢野氏の話をもっともっと聞きたいと思った半面、片山氏、久保田氏との対談形式であったことで矢野氏のトークが引き出せ、話の内容、深みがより増し感動を呼び起こすことができたように思う。トーク番組の視点からすると話者のテロップをもっと丁寧に出す方が良かったのではないか。また、最後の中江有里氏とベリーゲッドマン・MOCA 氏の出演は、今後の番組の展開上必要なことは理解するものの、ここまで内容と流れからすると疑問が残った。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、石塚徹委員（以上 7 名）

以上、GAORA では、委員の皆様の貴重なご意見を、より良い番組をお届けしていくために活用させていただきます。